

<様式1>

令和2年度 さいたま市立大戸小学校 自己評価書

校長 長島 クミ子 印

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

学校教育目標「かしこく やさしく たくましく」

重点目標「明るく、自ら考え、落ち着いて学習に取り組む児童の育成」

(1) 確かな学力の育成 <かしこく> 進んで勉強する子 Grit Growth Global

わかる授業の工夫と個に応じた指導、学習規律や学習習慣の育成、「主体的・対話的で深い学び」の授業改善および読書活動の充実を図る。

(2) 豊かな心の育成 <やさしく> 思いやりのある子 Grit Growth

コミュニケーション能力の育成、心を育てる環境づくり、道徳教育の充実、生徒指導・教育相談の充実を図る。

(3) 健やかな体の育成 <たくましく> がんばりぬく子 Grit

体育授業の工夫改善と体力向上、運動量の確保、望ましい生活習慣の定着、安全教育の推進を図る。

(4) きれいで開かれた学校 <安全で信頼される学校> Grit Growth

施設設備の安全管理、花と緑に包まれた学校づくり、家庭・地域と連携の強化、学校からの情報発信やボランティアの受け入れを図る。

(5) 「学校における働き方改革」の視点から、教職員が学校業務改善計画を立て、ワーク・ライフ・バランスの充実を図る。

2 評価結果について

・「学校の学習はわかる」と答えた児童の割合は95%にのぼり、学習規律の定着と工夫した授業が行われたと考えられる。一方で「授業中、先生に質問したり発表したりする」と答えた児童の割合は73%に留まる。児童の積極性を高め、より一層「主体的・対話的で深い学び」の充実を図りたい。

・「学校評価アンケート」では、「友だちとなかよく過ごし、人のいやがることはしていない」と答えた児童の割合は96%と全体的には良好な人間関係である。引き続き家庭やSCおよびSSWと連携を図りながら児童理解に努めたい。

・「休み時間に進んで体を動かす」と答えた児童の割合は79%で前年から低下した。ソーシャルディスタンスを保つように指導した結果であるが、今後も継続されるので、工夫して運動量確保に努めたい。

・保護者アンケート「学校は校内の整備を行き届かせて、子どもが安全に快適に学校生活を送れるよう努めている」と答えた保護者の割合は73%（わからない17%）で、コロナ禍においても、家庭・地域と連携を図った学校安全管理を行えた。

・働き方改革では、業務の効率化として学年内で役割を分担したり、ワークシート等をデータで共有をしたり、通知票を2回にしたり、留守番電話を設置したりするなど工夫を行った。また、臨時休業も加わり、結果的には昨年度より在校時間を減らすことにつながった。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

・GIGAスクール構想の実現に向けて、教職員および児童のICT機器活用の技能を高める。

・令和2年12月に始まった大規模改築工事により、校庭面積が3分の2となり、体育の授業や体育行事等の従来通りの実施が難しくなったため、教職員が知恵を出し合い、一層の創意工夫を図った授業を展開し、児童の運動量確保に努める。

・令和3年度も感染症拡大防止を意識した学校生活が継続されると予想するので、家庭・地域と連携をさらに強化し、学校からの情報発信を積極的に図る。また、コミュニティ・スクールの実施に向けて、準備委員会を立ち上げる。

・これまでの年間行事計画等を見直し、検討し、学校業務改善計画を図る。

※ A4判1枚程度に簡潔にまとめる。教育委員会に写しを提出する。